

四目市市総合会館7階 第1研修室にて開催された講座を取材しました。

第1回 100歳大学公開講座

無料

9月24日(月) 13時～

主催：一般社団法人 ハッピーアカデミー

後援：四目市市、四目市市教育委員会

第1部 講演

「わが辞書に介護老人という言葉なし」

講師：鈴木重光さん(介護士)

簡単な自己紹介を…私は現在58歳で
鈴鹿に住んでいます。

介護の仕事をしよと思ったのが55歳の時、それまではサラリーマンでした。素人だったので、ちゃんと介護の学校に行き、介護施設に勤めました。介護の仕事は大変な割に給料はとても安い。政府の方針のようですが……この3年間で200人の方をお世話させていただきました。どんな方がいらっしゃるかというと、わかりやすく3タイプに分けますと…

Aタイプ (暴言・暴力など介護するのが大変な方) 10%

Bタイプ (Aタイプよりは大変ではないが後ろ向きな方) 80%

Cタイプ (介護度が高くてもリハビリ等頑張る前向きな方) 10%

介護の現場で大変なのが、どの施設にもBタイプの方がほとんどなんですね。Cタイプの方はかなりなお世話もそう大変ではないですが…毎日毎日介護の仕事をして、介護者ばかり見ていると、これが普通の姿でいずれ自分自身も介護施設に入るんやと自然に思ってしまう。

でも、あるとき思ったんですね。このままいくとまずいんじゃないかと。

じゃあなぜ利用者さんがここに来るようになったのかを考え探るようになりました。

で、気づきました。こうなるのは「思い込み」なのだ。実際200人の方から出る言葉は、「もう私は年とっ

たからあかんのや」「もうこんだけ生きたからもうええんや」「介護老人になるんや」そういう思い込みが染み付くくらいあるんですよ。で、私は思い込みをその時点で思いっきり消しました。

その時に出了た言葉が「わが辞書に介護老人という言葉なし」だったんです。歳にとって介護老人になる必要ないやんか!

その次に出てきた言葉が、「元気・しあわせ・たのしい」私の価値観がガラッと変わりました。

すごい女性がいます。茨城県の川村さんは97歳の時、大動脈疾患で100日入院したんですが、高齢のため手術できず、集中治療室40日間の治療で回復。しかし足腰が弱り歩けなくなりました。

ふつう要介護4になったら特別養護老人に行くのですが、川村さんの中には介護老人という言葉はなく、そちらを選ばなかった。なんと自宅でリハビリを続け、歩けなかったのが歩けるようになり、現在100歳でお元気です。

まとめ：人生は選択、自立か介護施設か。人生は自分の立ち位置で決まる。という事です。

【質疑応答で出た話：鈴木先生の体験の中から】

たとえばAタイプの方は、圧倒的に愛情不足。愛情がほしいから物を投げつけたりするんです。そんな人には抱きしめたり大好き!と言ってあげるとぴたーっと止まるんです。観察し、タイプ別に対応することが収穫になりました。